



懇親会参加者一同で応援歌・校歌斉唱

日本大学
国際関係学部

校友会々報

第37号

静岡県三島市文教町 2-31-145

日本大学国際関係学部

校友会

平成十八年度 常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成十八年六月十日(土) 十六時から、三島グランドホテルにおいて開催された。相田信次会長挨拶のあと引き続き議事に移り、次の項目について田中由雄幹事長及び野田正人常任幹事会計担当から説明があり幹事会への議事等について、各項目ごと詳細にわたり審議された。

◎幹事会

平成十八年六月十日(土) 十七時から、常任幹事会に引き続いて開催された。関野幹雄常任幹事の司会で進行され、相田信次会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には弓場重明常任幹事、副議長には勝又義博常任幹事、書記には渡辺孝哉常任幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

- 一 平成十七年度事業報告
 - 一 平成十七年度決算報告
 - 一 監査報告
 - 一 役員に関する件
 - 一 平成十八年度事業計画(案)
 - 一 平成十八年度予算(案)
 - 一 総会係員について
 - 一 会報(第37号)掲載原稿募集について
 - 一 箱根駅伝功労者について
 - 一 留学生に対する奨学金支給について
 - 一 各科活動報告
 - 一 その他
- 田中由雄幹事長から、平成十七年度事業報告がなされ、続いて平成十七年度決算報告が野田

正人常任幹事会計担当から報告、予算内訳で国際関係学部同窓会・染谷徳昭会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。役員に関する件として、役員退任後の役職に関する申し合わせが提案され一部訂正することで承認された。校友への総会等の通知を密にするため、国際関係学部7名・商経学科1名・食物栄養学科11名を幹事として、事務局から推薦があった。

続いて平成十八年度事業計画(案)については田中由雄幹事長から、また平成十八年度予算(案)については野田正人常任幹事会計担当から提案され、予算の内訳で国際関係学部同窓会及び桜栄会への分担金については年度行事実施に際して補助申請することになり今年度から各科補助に計上した旨、田中由雄幹事長から追加説明があり、審議の結果二議案とも承認された。平成十七年度総会で馬場妙子幹事から提案された、大学箱根駅伝功労者及び西村美枝子顧問から提案された海外留学生に対する奨学金制度についての二件については、駅伝功労者は対象者名簿の提出を奨学金制度は今後検討することとした。会報掲載原稿については、前回と同様校友による原稿執筆者を募集したいとの報告がなされた。その他として、全日本大学野球選手権大会についての報告がなされた。

リーダーの育成に向けて



国際関係学部長

佐藤 三武朗

グローバルであり、未来志向型であると考えます。

学生は着実に成果を挙げています。スポーツでは、野球部が全日本大学野球大会へ出場しました。昨年に続いていた出場でした。惜しくも逆転負けとなりましたが、試合内容は素晴らしいものでした。

また先生方は国際シンポジウムの開催など、グローバルな活躍をしています。夏休みには、多くの先生方が海外へと出張します。その経験と実績は学生の指導に生かされると思います。

とりわけ注目したいのが、地域連携です。三島市や静岡県との連携が効果を上げています。その二つとして、学生が企業と連携して弁当を考案し、発売しました。新聞紙上で大きく報道され、人気は上々でした。また観光カリスマ講座を静岡県の共催で実施しています。観光のリーダーを育成するという県の期待を担っています。

来年から新たな教員制度が導入されます。従来は、教授、助教授、専任講師でしたが、来年度からは教授、准教授、助教の制度になります。グローバル化時代に対応して制度が変更されたのです。これからは新時代を生き残るために、学生、校友、教職員が一体となって努力しなくてはなりません。

改めて、校友のご理解とご支援をお願いしたいと思います。

三島キャンパスの将来に向けて



国際関係学部事務局長

劔持 宣弘

校友の皆様におかれましては、つがなくご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校日本大学のためにご支援をいただき衷心より感謝申し上げます。

わが国の少子化・高齢化・情報化・グローバル化は、つねに社会変化していかなければなりません。この時代背景の中で、平成21年には日本大学国際関係学部は、創設30周年を迎えます。

創設時は、国際化時代の到来を目の前にして、我が国の国際関係学部の先駆者として設置されました。また、大学も成長期にありましたから発展の一途を上げておりました。ところが、国際化時代に向かつて、多くの私学が同様の学部を設置したため、競争が激しくなりました。この厳しさを乗り越えるには、教育のソフト・ハード面すべてにわたって、社会的な使命を果たしていける教育環境を整備して改革を進めていかなければならないと思います。

教育の原点は、教職員一人ひとりが学生にどのように拘わるにかにかつております。教職員が情熱を

もつて、それぞれの立場で工夫して教育・研究活動を活発に行わなければならないかもしれません。その大学教育の成果として、国際化に対応できる学生の評価が上がることになり、大学は発展するのであります。

現在、国際関係学部の課題といまして、施設・設備の老朽化の問題があります。そこで三島駅北口に新校舎建設計画を進めております。この計画は、将来の大学教育・研究施設としての機能はもとより、地域の皆さんとの連携がとれる施設でなければならないと考えております。国際関係学部の将来にとって最重要事業計画として位置づけて、教職員の英知を集めて、遂行して行かなければならないと思います。校友会会員の皆様の中に日本大学三島高校出身者も大勢おられると思います。平成20年に創設50周年を迎えますので、高校・中学校の総合校舎の新築を進めております。

こうした事業計画は、将来の国際関係学部を中心とする三島キャンパスのあり方を左右する事業で

校友の皆様におかれましては、平素、日本大学三島キャンパスの発展に対し、ご理解とご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。教育力と指導力の向上をスローガンとして、私も教職員は一丸となってキャンパスの発展のために努力しています。その成果が、地域の皆様や校友の皆様の評価となっていると考えます。今こそ、次世代を担う人材の育成が大事であり、その自覚を持って、教育に専念しなければならぬと考えます。

学生気質も過去とは違っています。精神論をぶつただけでは対応できません。学生一人ひとりの個性と特質を見極め、指導することが大切です。三島キャンパスに学生を預ければ、安心だという評価を得ることこそ肝要です。教育力・指導力のあるキャンパスづくりこそ、生き残りの重要な施策と考えます。

教育を取り巻く環境には、実に厳しいものがあります。少子化がその最大の原因です。出生率を見れば、予測できたことですので、私

どもは生き残りを賭け、早めに対応してきたつもりです。セメスター制度の導入、海外研修、インターンシップ制度の充実などです。しかし、社会の変動と教育を取り巻く環境の変化には目覚ましいものがあります。皆様も存じのように、新聞紙上で、定員割れの大学が急速に増加しているというニュースが流れました。安穩としていけば、生き残れません。まさに大学経営者は大学運営の手腕を試されていると言つても過言ではありません。

厳しい環境に対しては、慣例に因われず、グローバルな視点で前進あるのみです。校友の皆様におかれましては、こうした社会の厳しい実情をつぶさに経験していられしやると推測します。むしろ危機感

は校友の皆さんこそお持ちかもしれません。過去の経験が役立つ場合と、役立たない場合があります。現在の状態は、過去を斟酌するよりも、未来をどう予測し、政策を企画し、実行するかです。まさに日本大学の建学の精神、理念こそ、

会長就任の挨拶



国際関係学部校友会会長
相田 信次

あります。少子化による志願者減少といった現実を見ると、将来を展望した設備投資が必要であります。情報化社会にありましては、実態の伴わないものは意味をなさないのであります。あらゆるところで国際関係学部の教育・研究活動に繋がるために創意工夫をしながら、改善・改革を進めて行いかなければならないと考えております。

グローバル化がますます進む中で、今日の時代的な要請に基づいた教育・研究を進めて、三島キャンパスで学びたいという多くの志願者が集まる学園を構築していかなければならないと考えております。

そのためには、世界で活躍できる多様な才能を持った多くの学生を社会に送り出さなければなりません。そうした学園としての期待に応えるためには、国際関係学部のあるべき教育はどうあるべきか、どのような学生を受け入れるべきかを考えなければなりません。現在の偏差値中心だけの入試から脱却して、人間としての総合的な評価をしていかなければならないと思います。

日本大学国際関係学部は、地球のあらゆるところで、個性を発揮しながら活躍できる人材を養成する教育が原点であります。創設時の原点を再確認しながら、将来に向けて発展していかなければならないと思います。校友の皆様これまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

校友の皆様におかれましては日々ご活躍との事お喜び申し上げます。この度、国際関係学部校友会会長を仰せつかりました相田信次です。

私は一九七二年三月日本大学短期大学部(三島)工科機械を卒業後、日本大学生産工学部機械工学科へ編入し卒業と同時に日本大学三島同窓会に参加しました。同窓会に於いては、諸先輩と一緒在校友会員同志の親睦と大学発展のため、三十六年間活動をして参りました。この間、我が日本大学三島も時代の流れと共に大きく変化しました。一九七九年に四年制の日本大学国際関係学部が三島の地に開校しました。日本大学三島同窓会の長い間の懸案でありました四年制の国際関係学部が開校したことにより前会長柴田正顧問、西村美枝子顧問、田中由雄幹事長、他諸先輩方、大学の関係者のご努力により日本大学本部校友会への加盟が二〇

〇一年四月に承認され名実共に日本大学三島同窓会から日本大学国際関係学部校友会として正式に認知されました。日本大学傘下の校友会として国際関係学部も他学部と肩を並べることが出来ましたのも諸先輩方のご努力の賜物と感謝申し上げます。

国際関係学部校友会(旧日本大学三島同窓会)は国際関係学部同窓会、短期大学の桜文会(国文・英文)、商経科同窓会(1・2部)、桜栄会(家政・食栄・生活)、工科同窓会(建築・機械)、三島予科三島教養部、文理学部(三島)、から構成されており、尚かつ長い歴史が有ります。私が国際関係学部校友会の会長に命ぜられ、事の重大性を改めて感じますと共に責任の重さを感じ得ません。是非とも校友会会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて昨年日本大学は、JR新幹線三島駅北口前に新たに土地を取得しました。その敷地に国際関係学部の校舎を建てる事が決まりました。校舎の活用方法として静岡県が推進している県立静岡がんセンターを中心とする産官学協同のファルマバレー構想の中核をなす施設を建設する事に成りました。国内外からそれらの関係者の研究及び情報交換の場を提供すると同時に学生の勉学の為の校舎として国際関係学部の更なる発展に期待いたします。

日本大学本部校友会の事業として各学部の正会員の校友子女入試の推進と校友会館設立、箱根駅伝の振興と推進。準会員(学生)には、スポーツに対する奨励金交付とスポーツ優勝者表彰、準会員(学生)の診療費助成、校友会独自の奨学金、校友子女入試の充実に伴う特別優遇制度の拡大などを行っております。また、今後は少子化の影響で大学を取り巻く環境は非常に厳しい時代に入つて参ります。大学受験も全入時代に成りますので校友会会員は一人でも多くのお子様を校友子女入試制度等も活用し入学させて頂きたいと思っております。

日本大学三島同窓会から国際関係学部校友会として、前会長柴田正顧問を初め諸先輩が築き上げたこの歴史と伝統に恥じぬ様に微力ながら校友会員の皆様のご協力をおおき、国際関係学部校友会活動を行つて参りたいと思っております。

結びに、校友の皆様のご健勝と国際関係学部の益々の発展を祈念致しまして会長就任の挨拶とさせていただきます。

私の海外研修



国際関係学部校友会副会長
国際関係学部同窓会長
宮下 公雄

日本大学を卒業して早二十年。今ではインターネットで簡単に世界中の人と会話を楽しみリアルタイムに情報を入手できる時代になった。

自らも、ワインの仕入れでイタリア フランスに飛び、ワインを日本に紹介する仕事についている。最近では、イタリア最大のワイン博覧会では記録的な入場者を更新、入場者はいつの間にか中国、東欧諸国 ロシアの発展に目を向けるバイヤー、多くのバイヤーはバイキングパワーも落ちてくる日本より中国、ロシアに目を向けているのだ。ワインの買い手としてもあまりいいお客さんではない日本人になっている事に気がつく。日本の現状は厳しい。高価なワインは、日本人には入手困難になりつつある...

私どもが入学した当時一九七八年は、国際関係学部は大変珍しい学科でした。国際関係そのもの

に特化した大学が教えるほどし
か無く、大学卒業までに、四十日
間の海外研修。それも国交が回
復されたばかりの中国研修もあ
った。自らも中国語専攻 本当
に中国へ研修が出来るのか？大
学3年時までは、中国語を専攻
しながらも半信半疑であった。
しかし、大学四年時、北京に3週
間、上海に一週間、本当に海外研
修が実施された。北京外国語学院、
中国の先生方は本当に親切に我々
を迎えてくれた。大学四年生と
もあり、紹興酒の飲み方、北京ダ
ックの食べ方まで教えていただ
いた。学生寮の銀のステンレス
の御椀で食べる食事は妙に美味
しかった。青島ビール勿論冷え
ていなかった。たまたま、海外研
修に来ていたアメリカのグルー
プと一緒に、なぜかアメリ
カのグループとも行動を共にし
た。北京湾風鎮のかび臭さ、葉く
さは今でも印象に残る。上海
の街並みに立った時、改革解放
の言葉が所々に書いてあったの
が新鮮だった。

上海のレストランでの出来事
だ。我々の態度があまりに傲慢
と受け取られ、レストランで一
本一本テーブルの左右に置かれ
るはずのナイフとフォークが、
テーブルの真ん中にまとめて投
げこまれたのだ……。カシャーン！
顔を真っ赤にして怒るウェ
ーターの顔、その瞬間、時間が一
瞬止まった。全員の顔が凍りつ
いた。日本人であることに恥
ずかしさを感じた一瞬であった。
中国の方にとっては、日本は許
しがたい戦争を起こした敵対国
である、その国から来た若者が
短パン、Tシャツで、飲みや歌へ
の豪遊三昧……。本当にまじめに
取り組んだ中国のエリートサラ
リーマンが、子供を連れて奥さ
んと3人でつましやかに1品
を食べる為にレストランに訪れ
るのに、ついには堪忍袋の切れ
たのだ……。

（当時 中国の元に対して20倍
の日本人の所得格差もあった）
事件後は、みんな静かに食事を
取り早々にホテルに引き上げた。
あれから二十数年、あの時偶
然おとずれた瞬間は、今でも耳
元に残っている。またその時の
教訓が私自身の相手と接する時
の根本となっている。自らが正
しいと思つての行動も相手にと
って不満が残つては何の利益も
得ることが出来ない。国際ビジ
ネスにおいても、自らの主張よ
り相手の企業の成長を願つてこ
そ良きパートナーに恵まれる。
約四十日間の海外研修は、現在
の仕事にも通ずる本当に良い経
験をさせて頂いたと思う。

国際関係学部を作つていただ
いた今は他界された諸先生方、
現在も活躍される諸先輩方の志
に報いる為にも是非皆様、世界
中で活躍され、たまには古巣、国
際関係学部同窓会にも顔を出し
てほしいと思います。

培った経験、技術を国際関係
学部の同窓生で育み更なる国際
関係学部発展にみんなの力で寄
与していただきたいと思ひます。

学生時代の思い出



国際関係学部校友会副会長
桜栄会会長

佐野 茂子

校友の皆様におかれましては、
お健やかにご活躍のことお喜び
申し上げます。

私はこの度、桜栄会長という
大切なお役目に就かせて戴くこ
とになりました。先輩達の皆様

の足許にも及びませんが、ただ母
校を大切に思う気持は、皆様と変
わらないと思つております。皆様
にお導きを戴きながら少しでも
お役に立てればと願つておりま
す。

卒業以来四十数年になります
が何かにつけて美しい環境に恵
まれた三島キャンパスで学んだ
ことが懐かしく思い出されます。
日本大学創立七十周年を記念す
る佳き年に、本学における最初の
女子教育の場として昭和三十四
年四月に短大栄養科が開設され、
私は昭和三十七年四月桜の花の
舞う中、家政科に入学いたしました。
（この年から家政科に改名、家
政コース・栄養コースになる）入
学して驚いたことは男子学生が
多いこと、女子高校出身の私は戸
惑いしましたが、短大の校舎に行き
ますとそこは女の園、和気藹々と
した楽しい雰囲気でした。担任は
家政科開設のために北海道から
赴任していらした岩田せき先生
です。家政科発展のためにご尽力
下さいました。いつもお着物で凛
としたお姿、響きのあるお声で講
義をなされ、世間知らずの私達を
娘の様に慈しみ「成せば成る」の
精神で「大丈夫よ」と励まし続け
て下さいました。いつも前向きで
真摯に努力なされるお姿に勇気
づけられました。数年前のクラス
会で先生の卒寿のささやかなお
祝を致しました折、かくしゃくと

して「あなたがたはまだ若よ、ガ
ンばつて下さいね」と五十を半ば
の私達は若さを戴きました。その
先生も平成十六年の五月九十五
才でご逝去され淋しくなりまし
た。

短大でしたのでカリキュラム
がびっしり組まれておりたまに
休講がありますと嬉しかったも
のです。夏休みも集中講義が有り、
又、病院、工場、保健所、学校と実
習もありその時は制服の黒のス
ーツに身を包み忙しい学生生活
でしたが、とても充実していたと
思います。

卒業間近の講義の時、家政科長
の山本俤一先生は、私達に饒の言
葉として「ウィットに富んだ女性
になりなさい」と、時々その時の
事を思い出しては、反省しており
ます。昨年先生をお尋ねすること
ができました。卒寿をお迎えにな
られた先生は昔のお姿そのまま
で、お声も当時とお変わりなく私
達を出迎えて下さいました。老化
速度防止のために自立の精神で
お一人家事全般をなさつてい
るそうです。記憶力もすばらしく
昔と変わらぬパワーを頂戴して
参りました。日本の女性の平均寿
命は世界一位、男性も世界四位と
相変わず長寿国です。生命工学
の進歩によって平均寿命はさら
に延びるかも知れないとか。予防
医療に心がけて寝たきりになら
ない様に努力したいものです。

校友会での縦のつながりの出会いを大切にして益々、国際関係学部校友会が発展いたしますことを心よりお祈り申し上げます。

ネクスト・ミッション



国際関係学部校友会顧問

柴田 正

会員の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。日頃の校友会活動への御尽力心より御礼申し上げます。

相田新会長体制で、平成十八年度がスタート致しました。若い力で思う存分の活躍を期待致します。校友会活動の中で、平成二十一年を目標に校友会館の建設準備が進められております。自助・自立を目指しての活動の拠点。是非とも実現させたいものです。

次に正会員の件ですが、本年七月二十九日の総会時点での国際関係学部校友会の正会員は十九名です。会員の皆様の加入をお願い致します。

箱根駅伝、トリノオリンピック、ワールド・ベースボール・クラシック、サッカー・ワールドカップ、全日本大学野球選手権大会への本学部野球部の二年連続出場等、スポーツイベントがある一方、世界のどこかでは争いの毎日の地域もあります。社会人の先輩として、これからの世界を背負う若い人達を、いかに育てていくか、どのように今までの経験、知識を伝えていくかを考え、行動に移せるかが今後の大切なことになると思います。富士山の伏流水の様に新田入り混り、日大ブレンドが出来る素晴しいところです。

校友会活動としては、まだまだ沢山のことを進めていくことになりませんが、会員・準会員の皆様と力を合わせて頑張りたいと思っております。

卒業後、何かとご多忙の毎日とは思いますが、校友会活動をご理解頂き、年一回ではありますが、旧交を温め、新たな明日を目指すべく、総会へお出掛け下さい。会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

縁から絆へ



国際関係学部校友会常任幹事

高野 真一

私は昭和54年から58年3月まで、国際関係学部の一期生として、クラブ活動やクラス連絡会議（クラ連）の委員として学生生活を満喫させていただきました。卒業とともに三島ともお別れかと思っていたら、旅行会社の赴任地が熱海支店で母校の担当でした。8年間があつという間に過ぎ、ついに転勤の時、これで本当に三島ともお別れと思ったものです。

旅行会社の営業にもやつと油がのつてきた頃、確か平成10年の9月、私立高校の修学旅行で350名を連れハワイに行ったときのことです。ワイキキの免税店の中で次の行程の確認で携帯電話を使っていると、じつと私を見ている日本人がいました。こんな所で携帯電話を使うなどとも言いたいのかと思ひ、頭を下げ外に出ました。ところがその人も外に出てきたのです。何か言われるなど覚悟を決めていると、「高野も冷たいやつだな。」と言われま

した。よくよく見るとその人は佐藤三武朗先生だったのです。さすがに驚きました。卒業して既に20年は経っていましたし、その間おそろく一度もお会いして居なかったのですから。縁は奇なものです。

卒業して20年も過ぎた頃、仕事上（転職後）同級生の宮下君に会う機会が増えました。私が母校を振り返らなかつた（振り返る余裕が無かつた）20年もの間、彼や大学に就職した斎藤君や柳川君、川口先生、そして後輩の皆様が同窓会を運営してくれ、校友会の諸先輩方々が伝統を守ってくれたことを知りました。

佐藤先生との出会い同級生諸先輩方との縁を思つた時、何か私に出来ること、この縁を大事にし、皆の役に立てることがしたいと言ふ思いが膨らんできました。そんな動機で今、校友会のお手伝いをさせていただいております。

昨今、「少子化問題」「国立大学の法人化」「4割の大学で定員割れの時代」など大学を取り巻く環境は良い時代とは決して言えません。私は一人でも多くの校友が母校との縁を大切にし、皆が強い絆で結ばれた時、我が日本大学は他のどの大学にも負けない素晴らしい大学になるのだと思います。大学の評価を上げるのは現役の学生ばかりではなく、もしかしたらそれ以上に我々卒業生の頑

張りにかかっているのではないのでしょうか。

各方面でご活躍の校友の皆様には、一人でも多く校友会正会員としてまた日本大学に帰ってきていただけることを心よりお待ちしております。

剣豪脑梗塞で倒れ 身体障害者となる

国際関係学部校友会幹事

川崎 一成

平成十一年五月十日午前九時頃、突然体の均衡を失って右身体の手足が動かなくなつた。とっさに電話台へ行こうとするが倒れて近づけない。まるで体全体が達磨になつてしまった。自分自身の体をコントロールできなくなつた。自問自答しながら必死で電話まで匍匐前進し何とか電話を掴むことができた。電話を取り上げて、NTTの一〇四番に市内稲荷の前田巖・久子夫妻へこの緊急事態を連絡してくれと懇願するがそんな事はやっていませんと、繰り返すばかりで一向にらちがいかない。ショックは増すばかりでした。NTTに拒絶されては万事休まず。そこで次の打つ手は何かと自然発生的に消防、警察がある。早速ふるえる指で不思議に消防署の番号を回していたのでし

た。早速前記の前田氏へ緊急事態の旨伝えるが、即時に了解され前田氏宅に運良く妻もそこに居たのでした。消防署はこの事態を状況判断されて、前田氏と妻よりも早く救急車と署員がかけつけてくれました。その時脳外科の専門医の病院を指名したのですが、相手に通じない、それもそのはずもう既に言語障害が始まっていたのです。担架に乘せられて大山道を南下して救急車に乗車しました。その間意識は朦朧としていたのです。ある時は記憶があり、ある時はないという状態です。脳の病は時間との勝負だと聞いていたので、近く日赤病院へ急行した。病院のエレベーターで意識がもどり又その時点で無くなりしました。次に目が覚めたのは集中治療室であり看護師一人が頻りに色んな処置をしていた。処置中にも意識が無くなったり戻ったりしていた。漸く身体を確認できるようになり、身動きがとれないのです。それは体が動かないように力帯がつけてあり両腕には点滴が、口には酸素マスクが装着され、腰には襦袢が付けられていた。一体これはどうなっているのか？再起不能の体になるのではないかと不安がよぎる。一瞬死を予感したのはこの時でした。世間でよく言われる三途の川が出て来た。それは幅三十米の清水が流れていた。向う岸では大勢の人々が集つ

て何か話合いをしていた。その中の二・三人の人が手招きしているのが見える。川を途中まで歩いたのですが水が冷たいので引返しました。そうしたら「あら生きています」の声が聞こえたので目を覚ましました。その間三日が過ぎていました。声を出すけれど誰も来ないので声が出ていないのではないかと一抹の不安があった。日がたつにつれて声が出ないのは現実になって認識できるようになった。早速自己流で発声練習から始めたのが後々に良い結果をもたらすことになったのです。病院の理学療養師は平行棒の中を歩く練習を毎日実施したのでした。右足と右腕が麻痺で全然動かず人間の生活は出来ないのではないかと考えられた。何はともあれ今から長期の闘病生活が始まるのです。

校友会会長賞受賞者



国際交流学科四年

金田 亜由美

私は本学三島キャンパスにおいて、多くのことを学び、たくさんの人々と出会い、充実した学生生活を過ごすことができたように思います。

入学時、私は多くのことを経験し、充実した四年間を送ることを決心し、学生会CSAへと入部しました。初めての仕事や行事が多く、戸惑うことや不安が多くあり、たくさんの方の失敗もしました。しかし、その度先輩や教職員の方々に助けていただき、仲間を支えてもらい、さまざまな人々との出会いを通して、多くのことを学ぶことができた。

三年次、先輩が引退し、自分が委員長に就任した時、今までとは違った不安を感じ、私には委員長として何ができるのか、どのように活動していくのか、などプレッシャーに負けそうになりましたが、先輩や仲間たちと協力し、自分達なりの学生会

を作り上げていくことで、前へ進んでいくことができました。先輩から受け継ぐと共に、自分達の部活動の方向性を探し決めていくことで、まっすぐな道ではなかったかもしれませんが、協力し、一つを成し遂げたあとには、大きな達成感をみんなが共感できることを実感しました。

四年間という期間を振り返ると、三島キャンパスで充実した学生生活を過ごせたことは、多くの先輩、後輩、同学年の仲間、さらに教職員の方々の協力なしにはありえませんでした。そのような方々と出会えたことに大変感謝しています。先輩方からたくさんの方々に教えていただき、仲間と多くの苦難や喜びを共有し、教職員の方々から温かく見守り協力していただいて、この学生生活を送ることができ、自分にとって大きな財産となっています。助けていただき、支え協力していただいた先輩、後輩、仲間、教職員の方々に心から感謝しています。ありがとうございました。



国際交流学科四年

橋本 流音

三年前、本学に入學した当時の私は、正直、何の目標も無くただ勉強して卒業していく四年間を想像していました。ただ、体育会系クラブに所属していた私はスポーツに懸ける情熱だけはあり、そんな私は先輩に誘われ体育会執行部に入部しました。その瞬間に想像していた四年間は変わっていききました。

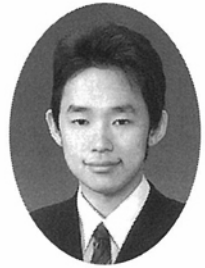
入部して最初の頃、明るく非常に活気のある雰囲気の中で人のために一生懸命働く先輩方の姿を見て、人のためになぜそこまでできるのか、理解しきれませんでした。しかし、今では不思議とそのことに何の違和感も無く、むしろ生甲斐を持つようになりました。

一年目、委員長補佐という立場で先輩方をサポートし、そして二年目に委員長を任せられましたが、先輩方が三十五代に渡って築き上げてきた体育会の伝統による重圧、先輩の様に上手く

体育会を動かさない自分の情けなさで不安で押し潰されそうになりました。何度も執行部員と意見を重ね合い、自分達は先輩方とは違う、自分達には自分達のスタイルがあることを見出しましたが、もうひとつ考えなければならぬことがありました。

それは、現代の文化の変化に合わせて、体育会全体も外面的だけではなく内面的にも変わっていることです。しかし自分達のスタイル、先輩方が作り上げてきた伝統、時代の変化、すべてのバランスを熟考し、体育会執行部はひとつの方向性を見つけてことができました。結果、新しいことに積極的に挑戦し、今後の体育会に繋がる1年になったと思います。

人の上に立ち、まとめ上げることの難しさ、人の役にたつことの難しさ、私は日本大学で様々な難しさを経験し勉強させて頂きました。これは、大学生活の四年間だけでなく、これからの社会でも生きていくものだと思信しています。そして信頼でき尊敬できる先輩方や友人、協力して頂いた教職員の方々や後輩、大勢の方々と出会うことができ、とても充実した学生生活を送れたことを誇りに思い、感謝しています。



国際関係学科四年

宮腰 治憲

私はこの日本大学国際関係学部に入學したことを後悔した日は一度もありません。今も続くこの大学生活は素晴らしいものであり、良き友人、良き先輩、良き後輩、そして良き恩師に恵まれ、同じ時間を共有できたことがその理由です。

この大学生活の原点となったのが、スペイン文化研究会という部活です。私はスペイン語を第一外国語として専攻していたこともあり、進んでスペインの文化を取り入れることが出来、同級生や先輩方と交流を深めることが出来ました。その中で私が魅入られたのは、このスペイン文化研究会が主催して行われる日本大学国際関係学部長杯スペイン語スピーチコンテストでした。全国の大学からスペイン語を学ぶ学生が集い、自身の語学力を競い合うこのイベントは大学一年生であった私の心を捉え、その後スペイン語を学ぶに

あたったの大きな目標となりました。そして迎えた二〇〇四年、二〇〇五年度の大会に出場し、二年連続して準優勝という結果を残すことが出来ました。スペイン語という言語に巡り会い、入学時から練習を重ね、積み上げてきた力を発揮できたことは、私がこの大学生活の中で得た誇りといえます。

しかしながら、この結果は自分自身だけの力で得たものとは考えていません。常に励まし、私の練習に付き合ってくれた部活の仲間達、影ながら私を支えてくれた両親、なかでも、忙しい時間を割き指導をして頂き、私にスペイン語を学ばすきっかけを与えてくれた顧問の角田先生には、最もお世話になりました。準優勝という称号ではなく、一つの目標に向かうために力を貸してくれた人々の重要性を発見できたことが、最も価値のある経験であったと思っています。

残された大学生活の中でスピーチコンテストに向けスペイン語の勉強を続け、今年こそ悲願の優勝を果たしたいと思っています。



国際ビジネス情報学科四年

隅田 優美

私がこの日本大学に入學しようと思ったきっかけは創部してわずかな陸上競技部に入部し、駅伝などで高い目標に向かって頑張りたいと考えたからです。また、この三島キャンパスには競技者として、最も大切な栄養のことについて学ぶこともできます。このような素晴らしい環境の中で二年間過ごしたいと思いました。

大学は高校とは違い、指示されたことをするのはなく、自分で考え行動していかなければいけません。入學した当初は怪我也まら、思うように走れませんでした。が、徐々に調子を上げ、関東インターカレッジの一万メートルで二位に入賞することができました。

これも日頃から熱心に御指導下さった監督はじめ、コーチ、共に汗を流した部員の支えがあったからこそ出来たことだと思えます。私にとって一万メートルは今まで経験したことのない距離

でしたが、自信につながる走りをする事ができました。

しかし私にとってこの大学生活は順風満帆とはいきませんでした。そういうときに一番大切なことを忘れていたような気がします。調子が悪いときこそ、支えてくれている周りの人への感謝の気持ちや、前向きに努力することの大切さを忘れてはいけないということに気付かされました。人は誰でもいいときばかりではありません。悪いときにこそ勉強できることは多いと思います。

大学で学ぶ二年間は短かいですが、この一年間で学べたことは、多く、貴重であったと思います。この日本大学で多くの人と出会えたことは何よりの財産です。そして、温かく見守ってくれた両親に感謝したいです。これからも、実業団というまた新たな場所で競技を続けますが、この日本大学で学んだことを生かして、多くの人に感動を与えたいと思います。(二年間ありがとうございました。)

平成17年度 事業報告

1 国際関係学部校友会会長賞授与

平成17年度日本大学国際関係学部在学学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

・校友会会長賞（副賞：記念品）は、国際関係学部3名・短期大学部1名に贈られ平成18年3月25日の卒業式当日、ホテルパシフィック東京において授与式が行われた。

・校友会会長賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部5名・短期大学部1名に贈られ4月4日開講式当日授与式が行われた。

①校友会会長賞（副賞：記念品）

小川 淳（国際関係学科4年） 内村 彩（国際交流学科4年）

渡邊賢治（国際ビジネス情報学科4年） 藁谷和正（商経学科2年）

②校友会会長賞（副賞：奨学金）

井所博志（国際文化学科3年） 金田亜由美（国際文化学科3年）

橋本流音（国際関係学科3年） 小倉宏紀（国際交流学科3年）

宮腰治憲（国際関係学科3年） 隅田優美（食物栄養学科1年）

1 日大スポーツ04

1,500部を平成17年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報36号を平成17年10月29日付け14頁3,000部を発行した。

1 各科同窓会等補助

国際関係学部同窓会・桜栄会並びに大学の体育会及び箱根駅伝応援に補助した。

1 常任幹事会

平成17年7月9日（土）16時から、三島グランドホテルにおいて開催した。

1 幹事会

平成17年7月9日（土）17時から、三島グランドホテルにおいて開催した。

平成17年10月29日（土）14時から、三島グランドホテルにおいて開催した。

1 総会並びに懇親会

平成17年10月29日（土）16時から、三島グランドホテルにおいて開催した。

1 箱根駅伝応援

平成18年1月3日（火）復路スタート応援地点で応援した。また、平成18年1月2日（往路）3日（復路）の両日、国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部が箱根で応援に花を添えた。

平成17年度 収支決算書

（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	520,000	520,000	0	会 費 収 入	11,736,000	11,964,800	△ 228,800
日大スポーツ購入費	450,000	450,000	0	雑 収 入	303,553	270,284	33,269
校友会報発行費	200,000	215,250	△ 15,250	前 受 金 収 入	0	0	0
国際関係学部同窓会分配金	7,188,000	7,245,000	△ 57,000				
桜栄会分配金	756,000	771,000	△ 15,000				
各科同窓会等補助	230,000	260,000	△ 30,000				
学生団体補助	500,000	600,000	△ 100,000				
総会並びに懇親会費	900,000	882,673	17,327				
箱根駅伝応援補助	200,000	331,500	△ 131,500				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒業記念品	0	4,189,500	△ 4,189,500				
会議会合費	430,000	620,565	△ 190,565				
通信運搬費	150,000	209,144	△ 59,144				
通事業務費	300,000	178,556	121,444				
雑予備費	650,000	441,095	208,905				
	196,000	0	196,000				
計	13,140,000	17,384,283	△ 4,244,283	計	12,039,553	12,235,084	△ 195,531
基金繰入額	0	0	0	基金繰出額	0	0	0
基 次 年 度 繰 越 金	7,000,000	2,951,248	4,048,752	基 前 年 度 繰 越 金	8,100,447	8,100,447	0
(前 受 金)	(0)	(0)	(0)				
(繰 越 金)	(7,000,000)	(2,951,248)	(4,048,752)				
支 出 の 部 合 計	20,140,000	20,335,531	△ 195,531	収 入 の 部 合 計	20,140,000	20,335,531	△ 195,531

貸 借 対 照 表

（平成18年3月31日現在）

（単位：円）

借 方			貸 方		
項 目	金 額		項 目	金 額	
普 通 預 金	27,951,248		基 金	25,000,000	
定 期 預 金	0		前 年 度 繰 越 金	(25,000,000)	
			本 年 度 繰 入 額	(0)	
			次 年 度 繰 越 金	(2,951,248)	
			前 年 度 受 金	(0)	
			繰 越 金	(2,951,248)	
合 計	27,951,248		合 計	27,951,248	

基 金 の 内 訳

（単位：円）

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	合 計
基 金	25,000,000	0	25,000,000
計	25,000,000	0	25,000,000

平成17年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成17年 月 日

会計監査 染 谷 徳 昭 印
宮 川 守 印

平成 18 年度 事 業 計 画

- 1 国際関係学部校友会会長賞授与(副賞:記念品もしくは奨学金)
日本大学国際関係学部及び短期大学部を平成19年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。
 - ・校友会会長賞並びに記念品 国際関係学部 4年卒業予定者 各学科1名
短期大学部 2年卒業予定者 各学科1名
 - ・校友会会長賞並びに奨学金 国際関係学部 各学科2・3年生 各学年1名
短期大学部 各学科1年生 各1名
- 1 日大スポーツ05
1,500部を平成18年4月国際関係学部・短期大学部(三島)各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行
会報37号(平成18年9月1日付)18頁3,000部。
- 1 各科同窓会等補助
 - ①各科名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助。
 - ②大学体育会・文化会に対する補助。
 - ③箱根駅伝応援に対する補助。
- 1 常任幹事会
平成18年6月10日(土)16時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 幹事会
平成18年6月10日(土)17時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 総会並びに懇親会
平成18年7月29日(土)16時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 箱根駅伝応援
平成19年1月3日(水)復路スタート応援地点で応援する。また、平成19年1月2日(火)往路ゴール応援地点及び平成19年1月3日(水)復路スタート応援地点で国際関係学部体育会所属(ダンス部)・文化会所属(吹奏楽部)の学生が応援に参加する。

平成18年度 収支予算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	620,000	520,000	100,000	会 費 収 入	14,780,000	11,736,000	3,044,000
日大スポーツ購入費	450,000	450,000	0	雑 収 入	268,752	303,553	△ 34,801
校 友 会 報 発 行 費	220,000	200,000	20,000	前 受 金 収 入	0	0	0
国際関係学部同窓会分配金	0	7,188,000	△ 7,188,000				
桜 栄 会 分 配 金	0	756,000	△ 756,000				
各科同窓会等補助	2,230,000	230,000	2,000,000				
学 生 団 体 補 助	600,000	500,000	100,000				
総会並びに懇親会費	890,000	900,000	△ 10,000				
箱根駅伝応援補助	330,000	200,000	130,000				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒 業 記 念 品 費	4,190,000	0	4,190,000				
会 議 会 合 費	430,000	430,000	0				
通 信 運 搬 費	210,000	150,000	60,000				
事 務 費	200,000	300,000	△ 100,000				
雑 費	650,000	650,000	0				
予 備 費	110,000	196,000	△ 86,000				
計	(11,600,000)	(13,140,000)	(△ 1,540,000)	計	15,048,752	12,039,553	△ 3,009,199
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	6,400,000	7,000,000	△ 600,000	前 年 度 繰 越 金	2,951,248	8,100,447	△ 5,149,199
(前 受 金)	(0)	(0)	(0)				
(繰 越 金)	(6,400,000)	(7,000,000)	(△ 600,000)				
支 出 の 部 合 計	18,000,000	20,140,000	△ 2,140,000	収 入 の 部 合 計	18,000,000	20,140,000	△ 2,140,000

平成 18 年度役員

任期 (H18.4.1 ~ H21.3.31)

役 職 氏 名 (在学年度)

常任幹事 稲葉桂子 (60・61)
 常任幹事 久保和之 (63・01)
 常任幹事 廣岡達郎 (01~04)
 常任幹事 齋藤実 (01~04)
 常任幹事 藤澤博隆 (03・04)
 常任幹事 明石浩一 (05~09)
 常任幹事 山瀬匠 (08・09)
 常任幹事 渡邊孝哉 (09・10)
 会計監査 染谷徳昭 (42・43)
 会計監査 宮川守 (47・48)
 教 養
 幹 事 高田日出太郎 (21)
 幹 事 萩野新一郎 (21)
 幹 事 馬場康夫 (21・22)
 幹 事 清好一 (21~23)
 幹 事 石垣義親 (21~23)
 幹 事 小野真一 (21~23)
 幹 事 澤直和 (21~23)
 幹 事 滝川昇 (22・23)
 幹 事 高橋文吉 (22・23)
 幹 事 堀井佳勇 (22・23)
 幹 事 勝村一男 (22・23)
 幹 事 筏元 (22・23)
 幹 事 中島知之 (22・23)
 幹 事 溝口梅男 (22・23)
 幹 事 中塩利雄 (22~24)
 幹 事 北條晃 (22~24)
 幹 事 長田渉 (22~24)
 幹 事 山内茂 (22~24)
 幹 事 川口正信 (22~24)
 幹 事 小林昭雄 (22~24)
 幹 事 甲木康夫 (22~24)
 幹 事 木村幸夫 (23~25)
 幹 事 小林栄三 (23~25)
 幹 事 勝俣敞充 (23~25)
 幹 事 森下菊美 (23~25)
 幹 事 播本弘 (23~25)
 幹 事 長谷川駿一 (23~25)
 幹 事 徳増清二 (23~25)
 幹 事 石野進 (23~25)
 幹 事 石垣恭弘 (23~25)
 幹 事 井上忠彦 (23~25)
 幹 事 杉山吉房 (23~25)
 幹 事 服部房夫 (23~25)
 幹 事 浅海武夫 (23~25)
 幹 事 石川進 (25・26)

役 職 氏 名 (在学年度)

会 長 相田信次 (44・45)
 副会長 宮下公雄 (54~57)
 副会長 高田菊平 (36)
 副会長 山田浩子 (41・42)
 副会長 小早川隆義 (42・43)
 副会長 山崎光義 (44・45)
 副会長 佐野茂子 (37・38)
 副会長 弓場重明 (44・45)
 幹事長 田中由雄 (42・43)
 常任幹事 関野幹雄 (48・49)
 常任幹事 (庶務担当) 関野浩二 (57~61)
 常任幹事 (庶務担当) 野田正人 (62・63)
 常任幹事 (庶務担当) 金田豊 (23~25)
 常任幹事 白鳥義仁 (25・26)
 常任幹事 田村実 (26・27)
 常任幹事 鈴木義樹 (28・29)
 常任幹事 市川紀子 (35・36)
 常任幹事 久保田勝 (38・39)
 常任幹事 佐野勝己 (39・40)
 常任幹事 土屋忠得 (40・41)
 常任幹事 土屋貞明 (42・43)
 常任幹事 渡辺忠昭 (42・43)
 常任幹事 林田孝二 (43)
 常任幹事 山口良児 (43・44)
 常任幹事 平岩美知子 (44・45)
 常任幹事 鈴木正八 (44・45)
 常任幹事 濱田義之 (45)
 常任幹事 久保田博明 (45・46)
 常任幹事 遠藤晶子 (45・46)
 常任幹事 榎本睦美 (45・46)
 常任幹事 西野和衛 (46・47)
 常任幹事 江本博勝 (46・47)
 常任幹事 神戸絹代 (47・48)
 常任幹事 瀬川宏 (47・48)
 常任幹事 大島裕二 (52・53)
 常任幹事 露木ひろみ (53・54)
 常任幹事 斎藤聡 (54~57)
 常任幹事 中西正 (54~57)
 常任幹事 柳川浩昭 (54~57)
 常任幹事 高野真一 (54~57)
 常任幹事 守野敏也 (55・56)
 常任幹事 木村貴美和 (55~58)
 常任幹事 横山雅人 (56~59)
 常任幹事 小松徳弘 (56~59)
 常任幹事 高野誠 (57~60)
 常任幹事 勝又義博 (57~60)

役 職 氏 名 (在学年度)

顧問 西村美枝子 (22~24)
 顧問 中嶋信行 (23~25)
 顧問 奥田吉郎 (23~25)
 顧問 瀬川一男 (23~25)
 顧問 鈴木邦良 (27・28)
 顧問 石川貞夫 (28・29)
 顧問 小椋貞夫 (28・29)
 顧問 角田義廣 (30・31)
 顧問 平井千枝 (34・35)
 顧問 柴田正 (41・42)
 参 与 渡辺洋子 (35・36)
 参 与 岩崎一雄 (43・44)
 参 与 板垣和代 (36・37)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	萩野谷 肇 (41・42)	
幹事	上田 定義 (41・42)	
幹事	加藤 久貴 (46・47)	
幹事	秋山 稔明 (46・47)	
幹事	前田 正文 (47・48)	
幹事	野田 栄 (47・48)	
幹事	多田 清吾 (47・48)	
幹事	辻本真由美 (51・52)	
幹事	濱田 順二 (53・54)	
幹事	吉川 浩司 (54・55)	
幹事	後藤 幸江 (58・59)	
幹事	齋藤 みどり (59・60)	
幹事	長澤 裕子 (59・60)	
幹事	中村由美子 (61・62)	
幹事	南 まり子 (03・04)	
幹事	小池 恭子 (04・05)	
幹事	白川 美保 (05・06)	
幹事	小柴 慶子 (06・07)	
幹事	勝又 美咲 (16・17)	

商経・二部

幹事	津田 正克 (50・51)
幹事	後藤 善夫 (52・53)
幹事	加藤 喜章 (53・54)
幹事	鈴木 理平 (54・55)
幹事	内野 祥司 (55・56)
幹事	鈴木 文量 (59・60)
幹事	武井 直子 (60・61)
幹事	土佐谷 泰子 (61・62)
幹事	田伏 正和 (01・02)
幹事	名雪 しげみ (01・02)
幹事	菅江 稔 (02・03)
幹事	明石 知恵美 (02・03)
幹事	川原 浩貴 (03・04)
幹事	小野 和彦 (03・04)
幹事	坂口 聖剛 (03・04)
幹事	今川 高宏 (04・05)
幹事	町野 智彦 (05・06)
幹事	池田 昌史 (08・09)
幹事	成田 伸行 (08・09)

桜 栄 会

幹事	藤代 恵美子 (34・35)
幹事	阿部 麻子 (35・36)
幹事	木崎 有里子 (35・36)
幹事	中村 満里子 (37・38)
幹事	川口 裕子 (37・38)
幹事	米山 日出子 (37・38)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	小澤 文郎 (36)	
幹事	大西 良雄 (37)	
幹事	小川 武司 (37)	
幹事	多田 清太郎 (37)	
幹事	坂口 正剛 (37)	
幹事	小石川 宣照 (37)	
幹事	谷崎 邦昭 (38)	
幹事	勝亦 誠 (38)	
幹事	栗山 康雄 (39)	
幹事	杉田 朋昭 (39)	
幹事	両角 勇 (42)	
幹事	高藤 省三 (49)	
幹事	滝本 博 (53)	

桜 文 会

幹事	岩崎 尚枝 (41・42)
幹事	小永井 京子 (43・44)
幹事	高橋 真理子 (44・45)
幹事	石井 千枝子 (46・47)
幹事	松村 啓子 (51・52)
幹事	佐野 有美 (52・53)
幹事	大塚 久子 (52・53)
幹事	瀬川 晶子 (52・53)
幹事	武田 裕美 (55・56)
幹事	勝亦 幾代 (56・57)
幹事	北川 早苗 (56・57)
幹事	山崎 睦子 (57・58)
幹事	高野 直美 (58・59)
幹事	阿部 昭子 (59・60)
幹事	神田 留美子 (60・61)
幹事	橋本 由恵 (62・63)
幹事	白石 忍 (63・1)
幹事	渡邊 陽子 (01・02)
幹事	小川 真弓 (03・04)
幹事	片柳 容子 (03・04)
幹事	秋山 陽子 (04・05)
幹事	小林 智子 (04・05)
幹事	松本 佳代子 (05・06)
幹事	古屋 美帆 (06・07)
幹事	渡辺 さゆり (06・07)
幹事	小林 昌子 (07・08)
幹事	山崎 幸恵 (08・09)
幹事	佐野 隆子 (09・10)
幹事	成島 敦子 (09・10)
幹事	星 美保子 (10・11)
幹事	工藤 美咲 (10・11)

商経・一部

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	矢澤 知秋 (25・26)	
幹事	長倉 祐作 (25・26)	
幹事	宮崎 茂樹 (25・26)	
幹事	光 信 儔 (26・27)	
幹事	浅原 好胤 (26・27)	
幹事	高橋 英明 (26・27)	
幹事	荒川 通 (26・27)	
幹事	塩田 浩 (26・27)	
幹事	大井 徹也 (26・27)	
幹事	稲葉 昭 (26・27)	
幹事	熊崎 文二 (26・27)	
幹事	輿水 啓一 (26・27)	
幹事	廣田 均 (26・27)	
幹事	栗原 恒夫 (26・27)	
幹事	後藤 守雄 (26・27)	
幹事	黒滝 祐司 (27・28)	
幹事	小林 義尚 (27・28)	
幹事	田村 栄一 (27・28)	
幹事	関本文彦 (27・28)	
幹事	真部 喜孝 (27・28)	
幹事	結城 勇一 (27・28)	
幹事	長沢 龍助 (27・28)	
幹事	佐々木 凱男 (27・28)	
幹事	川崎 一成 (27・28)	
幹事	丸山 富美男 (28)	
幹事	坂詰 正衛 (28・29)	
幹事	望月 知林 (28・29)	
幹事	安東 安生 (29・30)	
幹事	田嶋 文義 (29・30)	
幹事	寺崎 哲郎 (29・30)	
幹事	関 哲男 (29・30)	
幹事	林田 達郎 (29・30)	
幹事	森 伸夫 (30・31)	
幹事	道見 俊廣 (30・31)	
幹事	小野 武 (30・31)	
幹事	馬場 妙子 (30・31)	
幹事	屋鋪 公平 (30・31)	
幹事	堀 幸男 (30・31)	
幹事	根岸 元宏 (31・32)	
幹事	加藤 三洲 (31・32)	
幹事	渡部 浩司 (31・32)	
幹事	大村 日出雄 (32)	
幹事	甲田 知由 (33)	
幹事	吉野 洋一 (35)	
幹事	鈴木 肇 (35)	
幹事	御供 政紀 (35・36)	

役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	大 山 妙 子 (02・03)
幹	事	羽田真理子 (02・03)
幹	事	望月ゆりか (03・04)
幹	事	室伏ひとみ (03・04)
幹	事	鈴 木 春 美 (03・04)
幹	事	瀬 戸 直 子 (03・04)
幹	事	宮本久美子 (03・04)
幹	事	渡邊真理子 (03・04)
幹	事	小 澤 知 子 (04・05)
幹	事	斉藤香江子 (04・05)
幹	事	海老沢幸子 (04・05)
幹	事	井 上 雅 代 (04・05)
幹	事	西 岡 直 子 (04・05)
幹	事	渡 辺 恵 実 (04・05)
幹	事	田 村 美 保 (04・05)
幹	事	原 田 愛 (05・06)
幹	事	西 山 志 保 (05・06)
幹	事	小 澤 園 子 (05・06)
幹	事	渡 邊 千 史 (05・06)
幹	事	川 口 由 美 子 (05・06)
幹	事	池 谷 尚 美 (05・06)
幹	事	中村理恵子 (05・06)
幹	事	遠 藤 理 愛 (05・06)
幹	事	神尾かおり (06・07)
幹	事	遠藤里都美 (06・07)
幹	事	鈴 木 寛 子 (06・07)
幹	事	山 本 静 香 (06・07)
幹	事	佐 藤 純 子 (06・07)
幹	事	三 須 洋 美 (06・07)
幹	事	齊藤真由美 (07・08)
幹	事	遠 藤 久 美 (07・08)
幹	事	小野澤美和 (07・08)
幹	事	小林世以子 (07・08)
幹	事	中 林 香 子 (07・08)
幹	事	水 谷 鯉 恵 (07・08)
幹	事	横 田 忍 (07・08)
幹	事	中 橋 智 子 (08・09)
幹	事	村上由美子 (08・09)
幹	事	神戸亜里沙 (08・09)
幹	事	兼 房 華 (08・09)
幹	事	長倉智恵子 (08・09)
幹	事	大 塚 由 香 (08・09)
幹	事	白 取 京 子 (08・09)
幹	事	佐 藤 美 幸 (09・10)
幹	事	青 木 由 佳 (09・10)
幹	事	田 村 理 絵 (09・10)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	原 田 純 子 (54・55)
幹	事	池谷美津子 (54・55)
幹	事	中澤由利子 (54・55)
幹	事	佐伯絵里子 (54・55)
幹	事	伊 藤 若 菜 (54・55)
幹	事	吉田麻理子 (55・56)
幹	事	野 中 美 香 (55・56)
幹	事	藤 田 建 江 (56・57)
幹	事	小澤里佳子 (56・57)
幹	事	深津久美子 (56・57)
幹	事	石谷美智子 (57・58)
幹	事	田 中 恵 子 (57・58)
幹	事	嶋 由 樹 子 (57・58)
幹	事	鈴木江利子 (57・58)
幹	事	西 田 昭 子 (58・59)
幹	事	鈴 木 敦 子 (58・59)
幹	事	武藤さゆり (58・59)
幹	事	荻 沢 洋 子 (58・59)
幹	事	平澤佳代子 (58・59)
幹	事	山 田 明 子 (58・59)
幹	事	鈴 木 佳 乃 (59・60)
幹	事	塩 崎 朝 子 (59・60)
幹	事	加 藤 容 子 (59・60)
幹	事	藤 波 佳 乃 (59・60)
幹	事	藤井由紀子 (60・61)
幹	事	穂谷野弥生 (60・61)
幹	事	小島みちよ (61・62)
幹	事	久 保 玲 華 (61・62)
幹	事	杉 本 朋 子 (61・62)
幹	事	袴 田 則 子 (62・63)
幹	事	鷲 尾 貴 子 (62・63)
幹	事	田 上 順 子 (62・63)
幹	事	山 口 美 樹 (62・63)
幹	事	大須賀美穂 (63・01)
幹	事	櫻田智栄美 (63・1)
幹	事	三宅理砂子 (63・1)
幹	事	野 上 香 (63・1)
幹	事	日吉美由紀 (63・1)
幹	事	勝 俣 千 穂 (01・02)
幹	事	高田香世子 (01・02)
幹	事	田 村 尚 子 (01・02)
幹	事	鈴 木 崇 子 (01・02)
幹	事	杉 村 智 恵 (01・02)
幹	事	湯 原 里 美 (01・02)
幹	事	市 川 智 香 (02・03)
幹	事	岡本ゆう子 (02・03)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	小 坂 照 子 (38・39)
幹	事	塩谷まさよ (38・39)
幹	事	秋 山 幸 子 (39・40)
幹	事	関 口 瑞 (39・40)
幹	事	神尾つや子 (39・40)
幹	事	高 橋 美 鶴 (40・41)
幹	事	石黒栄美子 (41・42)
幹	事	鳥羽山資子 (41・42)
幹	事	松 本 芳 子 (42・43)
幹	事	駿 藤 春 代 (42・43)
幹	事	石 原 泰 予 (42・43)
幹	事	篠 田 光 代 (42・43)
幹	事	影山貴美枝 (43・44)
幹	事	土 屋 時 子 (43・44)
幹	事	柴 田 敬 子 (44・45)
幹	事	川村千代子 (45・46)
幹	事	辻 緑 (45・46)
幹	事	鈴 木 清 美 (46・47)
幹	事	佐藤奈津美 (47・48)
幹	事	鈴木佳津江 (47・48)
幹	事	神田みつ子 (47・48)
幹	事	勝 又 昌 代 (48・49)
幹	事	原 康 子 碓 (48・49)
幹	事	井久美子岩 (49・50)
幹	事	田 智 加 子 (50・51)
幹	事	大沼めぐみ (50・51)
幹	事	峰田富美子 (51・52)
幹	事	山 口 智 佳 子 (51・52)
幹	事	堤 令 子 (52・53)
幹	事	白 井 道 代 (52・53)
幹	事	石 橋 治 代 (52・53)
幹	事	岩 崎 美 浪 (52・53)
幹	事	竹 内 厚 子 (52・53)
幹	事	宮 沢 正 江 (52・53)
幹	事	遠 藤 豊 美 (52・53)
幹	事	長谷川規子 (52・53)
幹	事	松 川 順 子 (52・53)
幹	事	松 崎 光 子 (52・53)
幹	事	中 澤 小 雪 (53・54)
幹	事	齋 藤 裕 子 (53・54)
幹	事	長 田 智 子 (53・54)
幹	事	押見恵美子 (53・54)
幹	事	船 石 圭 子 (53・54)
幹	事	四 條 里 美 (53・54)
幹	事	鷲 巢 か ほ る (53・54)
幹	事	藤 原 和 美 (54・55)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	増原伸一	(61~01)
幹事	五十嵐公喜	(62~02)
幹事	犬塚重暁	(63~03)
幹事	野口 厚	(63~03)
幹事	藤田 隆	(63~03)
幹事	佐藤淳悦	(01~04)
幹事	高橋博樹	(01~04)
幹事	工藤典子	(01~04)
幹事	長谷川哲夫	(01~04)
幹事	村上東洋男	(01~04)
幹事	鈴木芳典	(01~04)
幹事	須田啓一郎	(01~04)
幹事	原田恭平	(01~04)
幹事	椿 昌宏	(01~04)
幹事	南 敦子	(02~05)
幹事	門脇正明	(02~05)
幹事	藤原誠吾	(02~05)
幹事	前田智也	(02~05)
幹事	坂井利彰	(02~05)
幹事	小田純子	(02~05)
幹事	田辺裕司	(02~05)
幹事	田松正樹	(02~05)
幹事	西岡昌仁	(02~05)
幹事	鎌田文一	(02~05)
幹事	沼尻正則	(03~06)
幹事	若松はるか	(03~06)
幹事	三宅大介	(03~06)
幹事	清水 建	(03~06)
幹事	小塚達郎	(03~06)
幹事	金枝あや	(03~06)
幹事	池田律子	(03~06)
幹事	紅林美智子	(03~07)
幹事	伊藤 敦	(04~07)
幹事	佐藤治夫	(04~07)
幹事	千野琢磨	(04~07)
幹事	日宇功太	(04~07)
幹事	渡辺将之	(04~07)
幹事	杉山文予	(05~08)
幹事	江島照美	(05~08)
幹事	室伏寛美	(05~08)
幹事	田尻美三	(05~08)
幹事	青木 徹	(05~08)
幹事	大嶽龍一	(05~08)
幹事	沖倉保宏	(06~09)
幹事	今川 慶	(06~09)
幹事	田中智康	(06~09)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	松永理沙	(16~17)
工 科		
幹事	宮下正俊	(39~40)
幹事	菅沼 弘	(39~40)
幹事	中山義昭	(41~42)
幹事	渡辺 清	(42~43)
幹事	赤地哲也	(42~43)
幹事	吉田 力	(44~45)
幹事	長倉良幸	(44~45)
幹事	早川清文	(45~46)
幹事	三枝和彦	(46~47)
幹事	勝間田太住	(47~48)
幹事	天野寿一	(48~49)
幹事	上原豊和	(52~53)
幹事	西家勝彦	(52~53)
幹事	藤本文彦	(52~53)
幹事	埜村光伸	(53~54)
幹事	勝呂千明	(53~54)
幹事	鈴木啓太郎	(54~55)
学 部		
幹事	遠藤日出夫	(37~)
幹事	渡辺博夫	(37~)
幹事	江川 洋	(42~)
幹事	藤幡俊量	(46~)
国 際		
幹事	松原裕二	(54~57)
幹事	川口智彦	(54~57)
幹事	諏訪部 健	(55~58)
幹事	平野雅之	(56~59)
幹事	福田勝弘	(56~59)
幹事	宇田隆康	(56~59)
幹事	齋藤史男	(56~59)
幹事	三浦 仁	(57~60)
幹事	梶 敬	(57~60)
幹事	横田 正	(57~60)
幹事	森田克彦	(58~61)
幹事	佐上菊二	(58~61)
幹事	小塚敏久	(58~61)
幹事	高橋 徹	(59~62)
幹事	横溝泰蔵	(59~62)
幹事	池尻敏広	(59~62)
幹事	山田竜作	(60~63)
幹事	土田洋二	(60~63)
幹事	桑原健治	(60~63)
幹事	渡辺武一郎	(60~63)
幹事	木俣かおり	(61~01)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	内田 恵	(09~10)
幹事	渡邊明子	(09~10)
幹事	植野敦子	(09~10)
幹事	鈴木みのり	(09~10)
幹事	佐野文美	(10~11)
幹事	秋山左知子	(11~12)
幹事	鞍本鮎美	(11~12)
幹事	尾間裕仁	(11~12)
幹事	田村奈津子	(11~12)
幹事	宮田朋子	(11~12)
幹事	田角典子	(12~13)
幹事	小林由佳	(12~13)
幹事	赤川智海	(12~13)
幹事	小出祐子	(12~13)
幹事	峯松園美	(13~14)
幹事	山田美穂	(13~14)
幹事	遠藤智海	(13~14)
幹事	清水磨希子	(13~14)
幹事	高橋由実	(13~14)
幹事	米永寿子	(13~14)
幹事	渡邊晃子	(13~14)
幹事	岩田直子	(14~15)
幹事	大沼秋桜子	(14~15)
幹事	高橋美絵	(14~15)
幹事	石渡麻史	(14~15)
幹事	服部直美	(14~15)
幹事	秋山絵操	(14~15)
幹事	山田真理子	(15~16)
幹事	栗田裕子	(15~16)
幹事	小林久美	(15~16)
幹事	河原崎朱里	(15~16)
幹事	平澤怜子	(15~16)
幹事	榊原友希	(15~16)
幹事	田村美沙子	(15~16)
幹事	植松明菜	(15~16)
幹事	荻島宏予	(15~16)
幹事	宇野浩吏	(16~17)
幹事	星野成幸	(16~17)
幹事	渡邊 尚	(16~17)
幹事	木下友理	(16~17)
幹事	鈴木佳奈子	(16~17)
幹事	中西麻純	(16~17)
幹事	増島清美	(16~17)
幹事	萩原美香	(16~17)
幹事	平川綾乃	(16~17)
幹事	綾部久美子	(16~17)

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	山下 政幸 (11~14)	
幹事	小林 久美 (11~14)	
幹事	堀本 晴子 (11~14)	
幹事	鈴木 さや夏 (13・14)	
幹事	村山 景子 (13・14)	
幹事	川下 知恵 (12~15)	
幹事	鹿内 隼人 (12~15)	
幹事	齋藤 慎亮 (12~15)	
幹事	山本 克幸 (12~15)	
幹事	楠本 幸貴 (12~15)	
幹事	川居多希子 (12~15)	
幹事	沢植由美子 (12~15)	
幹事	豊永有美子 (12~15)	
幹事	原 順子 (12~15)	
幹事	平野 文星 (14・15)	
幹事	小澤 有礼 (12~15)	
幹事	大野 達男 (12~15)	
幹事	太田 孝一 (13~16)	
幹事	穴戸 馨 (13~16)	
幹事	高巢 幸喜 (13~16)	
幹事	山川 利雄 (13~16)	
幹事	浅野 雄介 (13~16)	
幹事	新居 優子 (13~16)	
幹事	筒井 友恵 (13~16)	
幹事	本多加奈 (13~16)	
幹事	山本 彩子 (13~16)	
幹事	小栗 美緒 (13~16)	
幹事	勅使河原武史 (13~16)	
幹事	相見 大輔 (13~16)	
幹事	板橋 紗綾香 (13~16)	
幹事	武田 泰弘 (13~16)	
幹事	浅石 友里子 (13~16)	
幹事	渡邊 頌子 (13~16)	
幹事	岩崎 康全 (13~16)	
幹事	深川 大 (14~17)	
幹事	綱島 昇 (14~17)	
幹事	塚田 泰章 (14~17)	
幹事	杉町 カウエ (14~17)	
幹事	小川 淳 (14~17)	
幹事	内村 彩 (14~17)	
幹事	渡邊 賢治 (14~17)	

役	職	氏 名 (在学年度)
幹事	久 芳 仁 (06~09)	
幹事	植松 信二 (06~09)	
幹事	小林 寿成 (07~10)	
幹事	望月 雅子 (07~10)	
幹事	斉藤 美根子 (07~10)	
幹事	瀬瀬 健太 (07~10)	
幹事	大越 久美子 (07~10)	
幹事	佐竹 篤 (07~10)	
幹事	小泉 梨恵 (07~10)	
幹事	高島 寛幸 (08~11)	
幹事	正木 創一 (08~11)	
幹事	関根 大助 (08~11)	
幹事	井上 善史 (08~11)	
幹事	登ヶ谷 祐人 (08~11)	
幹事	金子 浩二 (08~11)	
幹事	早乙女 桂子 (08~11)	
幹事	内田 修 (08~11)	
幹事	成田 哲浩 (09~12)	
幹事	八木 美由紀 (09~12)	
幹事	清水 大督 (09~12)	
幹事	川合 貴子 (09~12)	
幹事	井上 明子 (09~12)	
幹事	徳田 瑞希 (09~12)	
幹事	斉藤 真規 (10~13)	
幹事	長岡 福也 (10~13)	
幹事	上西 智史 (10~13)	
幹事	筒井 靖子 (10~13)	
幹事	杉山 祥啓 (10~13)	
幹事	渡辺 梓 (10~13)	
幹事	大津 留真紀 (10~13)	
幹事	大友 仁美 (10~13)	
幹事	佐野 京子 (12・13)	
幹事	鈴木 亜希子 (12・13)	
幹事	園部 真子 (12・13)	
幹事	長谷川 郁子 (11~14)	
幹事	松下 夏葉 (11~14)	
幹事	竹腰 真裕子 (11~14)	
幹事	後藤 暢宏 (11~14)	
幹事	竹村 直 (11~14)	
幹事	清水 真由美 (11~14)	
幹事	小森 美雪 (11~14)	
幹事	若月 朋子 (11~14)	
幹事	杉野 美紀 (11~14)	
幹事	齋藤 久美絵 (11~14)	
幹事	川村 友江 (11~14)	
幹事	猪狩 博織 (11~14)	

校友会だより

国際関係学部校友会



国際関係学部校友会

正会長挨拶、佐藤三武朗国際関係学部長の祝辞の後、議長団・書記が選出された。

議長には弓場重明常任幹事、副議長には高野真一常任幹事、書記には瀬川宏幹事が選出され、次の議事が審議された。

- 一 平成十六年度事業報告
- 一 平成十六年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 平成十七年度事業計画(案)
- 一 平成十七年度予算(案)
- 一 会則改定の件
- 一 役員改選の件
- 一 本部校友会報告
- 一 各科活動報告
- 一 その他

田中由雄幹事長から、平成十六年度事業報告がなされ、続いて平成十六年度決算報告が野田正人常任幹事会計担当から報告、染谷徳昭会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。

続いて平成十七年度事業計画(案)及び平成十七年度予算(案)について審議され、承認された。

会則改定の件については、田中由雄幹事長から主な改定項目として名称を校友会会則に、任期役員を三年に、会費を別に定めることの三件の提案があり審議の結果承認された。

役員変更については、本日の総会前に開催された幹事会で次期会長を相田信次副会長に交替するとの上程が田中由雄幹事長からあり、審議の結果了承された。

本部校友会報告では、柴田正会長

から本部主催の年間会議の報告と本部校友会への正会員加入促進の情宣活動をお願いがなされた。

各科活動報告については、柴田正会長から工科建築科の状況、板垣和代副会長から第四十四回桜栄会総会についてそれぞれ報告があった。

その他として、相田信次副会長から箱根駅伝についての経過説明と本年度の応援案内及び担当者紹介があり、板垣和代副会長の閉会のこととした。

総会終了後、会場(ダイヤモンド)を移し懇親会を開催した。田中由雄幹事長の司会で進行され、山田浩子副会長の閉会のことばに始まり柴田

正会長挨拶の後、来賓挨拶として安西借二郎副総長、佐藤三武朗学部長の祝辞があった。来賓紹介の後、齋藤直樹校友会本部事務局次長による乾杯のご発声で懇談に移った。木村幸夫幹事の指揮のもと応援歌、西村美枝子経済学部校友会副会長の音頭で校歌斉唱となり、高野真一常任幹事により万歳三唱、山崎光義副会長の閉会のことばをもって閉会となった。

国際関係学部同窓会

平成十七年十一月二十六日、第十二回国際関係学部同窓会総会・懇親会が国際関係学部(アルカディア市ヶ谷)にて開催されました。平成十一年の総会から三島と東京で交互に開催することになって以来、四度目の東京会場となりましたが、約六十名の卒業生や来賓の先生方が集い、和やかな会となりました。

総会では、会長挨拶の後、会計報告が行われ、同窓会費の徴収方法に関する説明について審議されました。

また、写真撮影に続いて行われた親睦会では、国際関係学部長佐藤三武朗先生の挨拶で始まり、懇談に移りました。

懇談会におきましては、来賓の先生方にキャンパスライフや授業についての懐かしい思い出話をして頂くとともに、参加した同窓生の近況報告など、会員同士が久々の再会を分かち合い、祝す光景が至るところで見られ終始和やかな会となりました。

桜栄会

桜栄会では、毎年会報「桜栄」を発行しております。今年度は、四十号を平成十七年五月二十日に発行し、約九千五百名の全会員に郵送いたしました。当番期の方々を中心に作成し、特色ある会報をお届けできたことと思います。

平成十七年八月七日(日)には、第四十五回総会・懇親会が三島グランドホテルで行われ、総会で年間行事報告、会計報告などを行いました。また、国立大学法人静岡大学教授及び付属幼稚園園長(学術博士)の大村知子先生をお迎えし、講演会が催されました。引き続き行われた懇親会は、五期・十五期・二十五期・三十五期の当番期を含む約六十名の会員、佐藤三武朗国際関係学部長をはじめ恩師の先生方や、国際関係学部校友会からの来賓をお迎えして、和やかな会となりました。(文責 渡邊)



桜栄会



国際関係学部同窓会

日本大学国際関係学部校友会会則

第一章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第二章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第三章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部三島・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部(大学院含む)・短期大学部三島の在学生。但し議決権は有しない準会員により構成する。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第四章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|-------|-----|
| 会 長 | 1名 |
| 副 会 長 | 若干名 |
| 幹 事 長 | 1名 |
| 常任幹事 | 若干名 |
| 幹 事 | 若干名 |
| 会計監査 | 2名 |

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とする。但し再任は妨げない。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。

第五章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

1 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

2 事業計画に関する事項。

3 予算・決算に関する事項。

4 会長の選任に関する事項。

5 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第六章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第七章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第八章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第九条 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

第十章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

1 国際関係学部の名譽を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

2 校友会の秩序を乱したとき。

3 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成18年4月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(16 部会)

本部大学院・法・文理・経済・商・芸術・国際・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(4 部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会

桜 門 会

海外特別支部(7 支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・ニューヨーク

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

国際関係学部同窓会

短期大学部

桜文会(国文・英文)
 商科同窓会(1・2部)
 桜栄会(家政・食栄・生活)
 工科同窓会(建築・機械)

三島予科

三島教養部
 文理学部(三島)